

ほっとにゅーす

このコーナーは、市民の皆さんの活動の様子やまちで見かけたほっとな話題を紹介するページです。

あなたが知っているおもしろい行事などがあれば、企画広報課広報広聴グループ（☎65-6504）まで事前にお知らせください。



長浜・北びわ湖大花火大会と清掃活動

長浜の夏を彩る「長浜・北びわ湖大花火大会」が、長浜港一帯で開かれ、家族連れやカップルなど、およそ13万人が訪れました。

今年は、日本を代表する10人の花火師による芸術花火をはじめ、仕掛け花火やスターマインなど、例年を2000発上回る12000発が打ち上げられました。

また、翌日には、清掃活動が早朝より行われ長浜西中の生徒らおよそ600人が汗を流しました。



8/4(木)



中学総体壮行会

県内すべての中学校が参加し、接戦を繰り広げた滋賀県大会で、優秀な成績を取めた市内の個人・団体の選手たちが市役所前に集まり、翌日から始まる近畿大会に向け、市長から激励の言葉をうけました。

「ここに至るまでにはたくさんの苦労をしたと思う。長浜の、滋賀県の代表として誇りを持って頑張ってきてください」との市長の言葉に「自分を信じ、仲間を信じ精一杯戦ってきます」と誓いの言葉を述べていました。

8/7(日)



観音の里 ふるさとまつり 盛んに

第27回観音の里たかつきふるさとまつりが、渡岸寺観音堂（向源寺）境内および高月町内一円で開かれました。

会場イベントの今年のテーマは「もう一度日本」。3月の東日本大震災により落ち込んだ、日本人の心の復活を祈り、古き良き日本の和芸・風情を楽しむ企画となりました。チンドン屋、ガマの油売り、津軽三味線、太神楽曲芸、願掛け大風鈴などの催しで訪れた約13,000人が楽しみました。

8/13(土)



湖北ジョイントフェスタ2011

「湖北ジョイントフェスタ2011ーまちなか音ライブ! 湖北に響く郷愁曲」が、市内各地で開かれました。

このイベントは、音楽を通じて地域を盛り上げていこうと長浜青年会議所を中心に市民らでつくる実行委員会が開いたもので、去年に続き2回目となります。

会場となった中心市街地や、長浜八幡宮、博覧会会場、豊公園などでは、地元出身のミュージシャン、アマチュアバンドなどおよそ70組が、様々なジャンルの音楽を披露しました。

8/9(木)



自由研究の発表

長浜城歴史博物館にて、「江・浅井三姉妹 自由研究コンクール」で入賞した皆さんが発表を行いました。三姉妹の生き様を中心に戦国時代の歴史を熱心に調べ、分かりやすい工夫してまとめた力作が並び、発表を聞きに訪れた人たちは大いに感心し、聞き入っていました。自由研究を通して新たな発見をした入賞者たちは、今後さらに深く学んでいきたいと意欲を燃やしていました。

7/22(金)

三成と秀次来たる 大河ドラマ特別展 開会式

長浜城歴史博物館において、大河ドラマ特別展「江〜姫たちの戦国〜」の開会式が開かれました。この日は、ドラマで石田三成役の萩原聖人さんと、豊臣秀次役の北村有起哉さんがゲストに招かれ、役への思いや、撮影現場のエピソードなどを紹介しました。その後、関係者によるテープカットが行なわれ、特別展の開会を祝いました。また、萩原さんは、開会式終了後、石田三成ゆかりの地である石田町を訪れ、三成の供養塔に参拝しました。



7/23(土)

江・浅井三姉妹博覧会震災復興支援チャリティーイベント 大河ドラマ主演・上野樹里さんトークショー

江・浅井三姉妹博覧会実行委員会が、震災復興支援の一環として被災地にエールを送ろうと、大河ドラマで主役を務める上野樹里さんとNHKチーフプロデューサーの屋敷陽太郎さんを招き、トークショーや募金活動を行いました。

会場の浅井文化ホールは、およそ2600人の応募者の中から当選した497人が集まる超満員。

ドラマにかけける思いや撮影の裏話が披露されたトークショーでは上野さんが、「いろいろな人と出会い成長していく江を演じるのは、楽しみであり、とてもやりがいがある。撮影は1年2か月と長いように短い。悔いのないよう演じりたい。」と熱く語りました。

また、トークショー終了後には、上野さんがロビーに立ち、募金活動を行いました。



歴ドラ隊日記 その6

博覧会を盛り上げPRするため結成された長浜歴ドラ隊。このコーナーは博覧会のことなら何でもこの彼女たちによる日記です。思わぬ裏話がぎけるかも……。

私の名は市。小谷城城主浅井長政の妻であり、茶々、初、江の母。また織田信長の妹としても有名であると自負している。私が一番気に入っているのは嫁いでから後の「小谷の方」という呼び名じゃ、これはあまり知られていないであろうが、辞世の句もこの名で残っている。私がこの名を使い続けたのは、湖北の地を想い愛しながら生きて証しなのじゃ。

さて、我ら歴ドラ隊は博覧会PRの為に、北は関東、西は九州まで全国各地に赴き、滋賀県の魅力をお伝えしてある。それと同時に地元祭りの催しにもお招きいただき、事も多い。地元がこの博覧会を機会に魅力を再発見し、湖北の歴史や文化財に誇りを持って、全国から来る客人をお迎えしようと盛りあがっている様子を見るのは本当に嬉しいものじゃ。先日も賤ヶ岳や小谷の祭りに招いてもらい、想い出に残るひと時を過ごさせてもらった。

実はこの私、嫁いで来た頃は織田の娘として歓迎されておらんかった。しかし、長政様が城下のまつりに連れて行ってくだされ、地元の方々と触れあうことで、いつしか小谷の奥方、「小谷の方」と呼ばれるようになったのじゃ。湖北の民は昔も今も変わらず温かいの。私はこの名を生きていて、長政様と小谷の地を愛し続けた。その想いは今も変わらずおらぬ。大切な湖北の地が今後ますます多くの方に愛され続けるよう願っている。小谷の方より